



埋文だより

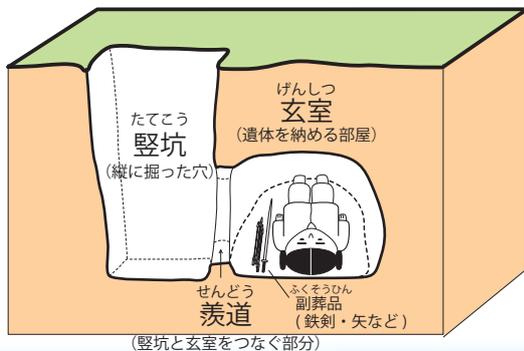
第56号

平成23年10月19日発行



立小野堀遺跡39号墓

地下式横穴墓模式図



目次

- ・南九州独自の古墳時代の墓制 地下式横穴墓 1
- ・発掘速報! 高吉B, 堀之内, 山口, 北麓原D遺跡 2
- ・各種講座, 「かごしまの教育」県民週間関連行事のご案内 3
- ・埋蔵文化財センター普及啓発活動の紹介～夏休み編～ 4・5
- ・シリーズ埋文豆知識⑭ 江戸時代の金貨「二分金」 6

～南九州独自の古墳時代の墓～

地下式横穴墓

立小野堀遺跡（鹿屋市）では、地下式横穴墓という南九州の古墳時代にみられる墓が、80基以上見つかりました。玄室の中からは鉄製の剣や矢じりなどが、竪坑の地表面からは土器や他の地域で作られた須恵器が見つかり、当時の大隅地方は交流が盛んに行われていたことが明らかになりました。この中の一つ、39号墓は1つの竪坑から南北に2つの玄室がつけられていて、南玄室からは2本、北玄室からは約14本の鉄の矢じりと長さ73cmの鉄剣が見つかりました。

これらの墓は、見つかった遺物等から、5世紀中頃から6世紀前半にかけてつくられたと思われます。

発掘速報！

埋蔵文化財センターでは、今年度も県内各地で発掘調査を行っています。そして、それぞれの遺跡でたくさんの成果が上がっています。ここでは、その中から4つの遺跡の最新の状況を紹介します。

埋められた土器のナゾ（高吉B遺跡）



見つかったときの状態

志布志市にある高吉B遺跡では、縄文時代早期～弥生時代を中心に調査を進めています。特に、縄文時代早期（約8000年前）では、調理施設と考えられる集石遺構しゅうせきいこうが数多く確認されています。そしてその近くから、穴を掘って埋めたと思われる、ほぼ完全な形の土器が見つかりました。誰が、なぜ、何のために埋めたのでしょうか。

縄文人の調理施設（堀之内遺跡）

薩摩川内市にある堀之内遺跡では、縄文時代前期（約5500年前）の集石遺構しゅうせきいこうが1基出てきました。また、黒曜石製の打製石鏃せきざくと、それを作るときのかげらが見つかったことから、石器の製作所だったと考えられます。

古代（10世紀前半）では、火をたいたあとや溝のあとが、いくつも見つかり、何回かにわたって利用されていたことがわかりました。



石を熱して調理する集石遺構

中世有力者の屋敷群（山口遺跡）



無数に見つかった建物の柱穴痕

薩摩川内市にある山口遺跡は、旧石器時代、縄文時代、古代、中世と長い間にわたって人々が生活をしてきたことわかる遺跡です。中世（鎌倉時代・13～14世紀）は、30軒程度の建物跡ほったてぼしら（掘立柱建物跡）、お墓、ゴミ捨て場が見つかりました。

また、中国製の陶磁器も見つかり、当時の有力者の暮らしぶりが明らかになりました。8月20日には現地説明会も行われ、400名以上の見学者が訪れました。

古代のはたけ（北麓原D遺跡）

霧島市溝辺の北麓原D遺跡きたしほでは、平安時代前半（9世紀中頃）の火をたいたあとのある建物跡やはたけの畝うねと考えられる遺構が見つかりました。また、土師器はじきや須恵器すえき、塩を作ったり運んだりした焼塩土器やきしおも見つかりました。古代のはたけに関する遺構は県内でも発見が少なく、当時の農業生産の様子を知ることができる貴重な資料です。



畝の間が溝のように見えます

縄文の森第32回企画展の紹介

次回の企画展は「川内川流域に生きた人々～激甚災害に伴い発掘された遺跡～」と題し、12月3日から平成24年3月18日まで開催します。川内川流域は、平成18年7月に起きた大洪水を受け、大規模な河川改修が行われました。そのための発掘調査で見つかった、多くの貴重な遺構や遺物を紹介します。



中世の山城「虎居城跡」(さつま町)

各種講座のお知らせ

考古学講座第5回「鹿児島県の縄文遺跡」

講師：馬籠亮道

場所：上野原縄文の森展示館

日時：平成24年2月4日(土) 13:30～15:00

参加費：100円(資料代)

県民大学連携講座「鹿児島県の遺跡に学ぶ」

第3回 「縄文はおもしろい」

講師：新東晃一(南九州考古学研究所長)

場所：かごしま県民交流センター

日時：平成24年2月25日(土) 13:00～15:00



※ どちらも申込は「上野原縄文の森」まで
電話 0995-48-5701

地域が育む「かごしまの教育」県民週間 関連行事のご案内

鹿児島県教育委員会では、毎年11月1日から7日までの期間を「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」として様々な行事を開催しています。これは、この期間に多くの県民の方々に学校等の施設や子どもたちの様子を見て、これからの「かごしまの教育」について考えていただくとするものです。

埋蔵文化財センターではこの「かごしまの教育」県民週間の事業として、遺跡の現地説明会を行います。また、上野原縄文の森との共催事業として、昨年度発掘調査・報告書を刊行した遺跡についての企画展講演会も行います。職員一同、心よりお待ちしております。

第31回縄文の森展示館 企画展講演会

「新発見！かごしまの遺跡2011
～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～」

演題：「発掘調査の成果報告」

日時：11月12日(土)
13:30～15:00

場所：上野原縄文の森展示館
1階多目的ルーム

内容：立小野堀遺跡(鹿屋市)
講師 藤島伸一郎
南下遺跡(南さつま市)
講師 平 美典

立小野堀遺跡現地説明会 (鹿屋市串良町細山田)

日時：11月19日(土)

1回目 10:00～12:00

2回目 14:00～16:00

内容：地下式横穴墓の説明
遺物展示

※ 遺跡内を歩いて案内しますので、動きやすい服装でお越し下さい。

発掘調査事務所 0994-62-3250



埋蔵文化財センター普及啓発活動の紹介 ～夏休み編～

埋蔵文化財センターでは、小中学校が夏休みに入ると、子ども向けのいろいろな講座や体験活動、学校の先生方や市町村の職員を対象とした研修講座などを行っています。どの活動も楽しく考古学について学ぶことができます。みなさんも来年はいっしょに参加してみませんか？

かごしま県民大学^{れんけい}連携講座「おまかせ！夏休み自由研究」



昔の道具に興味津々



土器の模様を再現しよう

7月26日、かごしま県民交流センターで実施しました。参加した子どもたちは、講師の職員の話聞きながら、古地図をもとに昔のことを調べたり、昔の土器や石器を観察したりしました。夏休みの自由研究のヒントをつかめたようです。

お宝発見？発掘体験「鹿屋市文化財ウォッチング」



遺跡の説明を聞きました



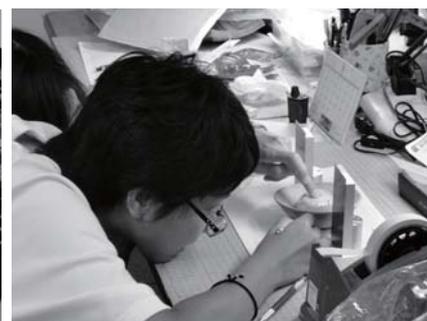
土器が見つかるかな？

鹿屋市文化財ウォッチングの小学生が田原迫ノ上遺跡（鹿屋市串良町）を見学に訪れました。担当職員の説明を熱心に聞いていました。また、発掘体験では、土器や石器を一生懸命探して掘り出し、見つけたときは満面の笑顔を見せてくれました。

センターの仕事を体験！「職場体験・インターンシップ」



ていねいに土器の表面を洗います



真剣な眼差しで実測！

埋蔵文化財センターでは、中学生や高校生の職場体験・インターンシップを受け入れています。今年の夏休みも、7名の参加がありました。

センターの役割について講義を受け、実際に業務を体験することができました。この中から未来の考古学者が生まれるかもしれません。

夏休みにスキルUP! 「教職員フレッシュ・パワーアップ研修」



先生も授業を受けます



土器の模様を紙に写し取る

採用されてから1年目と10年目以上の学校の先生方の研修も受け入れています。

考古学についての基礎的な事柄の紹介や発掘調査の方法について学びます。

また、土器・石器を学校の授業でどのように活用すればいいか、埋蔵文化財センターとの連携も紹介しました。

文化財のエキスパートとして「埋蔵文化財専門職員養成講座」



整理作業の基本を学びます



鉄器のクリーニング技術習得

県内の遺跡の発掘調査は、市町村の教育委員会でも行われています。埋蔵文化財センターでは、その担当者の技術向上のために様々な講座を開いています。

今回は初級・中級講座を実施し、発掘調査・整理作業の基本から応用的な分野の技術を紹介します。

夏休み以外もやっています! 「見学・体験・出前・貸出」

埋蔵文化財センターでは、夏休み以外にも、考古学や埋蔵文化財について学ぶことのできる取組みを年間を通して実施しています。そのいくつかを紹介しましょう。

遺跡見学・発掘体験

県内各地の発掘現場では、地層の観察や発掘体験など、いろいろな学習ができます。近くの発掘現場で、見学や体験をしてみませんか。詳しくは埋蔵文化財センターまでお問い合わせください。



まいぶん出前授業・まいぶんキット貸出事業

埋蔵文化財センターの職員が出張し、本物の土器や石器を使った出前授業を実施しています。内容は社会科に限らず、理科や図工の授業支援、講演、火おこし体験なども行っています。授業だけでなく、先生方や保護者を対象とした講座も行います。

また、教室の中で本物の土器や石器などにふれることができる実物資料の貸出事業も実施しています。ぜひご利用ください。

- 対象：県内の希望する学校
PTA 活動，公民館講座
- 申込先：埋蔵文化財センター
電話 0995-48-5811
- 詳細：当センターホームページをご覧ください。



土器(複製)を使った野外調理

埋文豆知識 14

江戸時代の金貨「二分金」

現在、上野原縄文の森展示館で開催されている「第31回企画展 新発見！かごしまの遺跡2011」では、船迫遺跡（志布志市志布志町）で見つかった江戸時代の金貨「二分金（二分判）」を見ることができます。発掘調査中に金貨が見つかったのは、垂水・宮之城島津家屋敷跡（現在のかごしま県民交流センター）の「二朱金（二朱判）」に続いて2例目で、「二分金」自体は、鹿児島県内では初めての発見になります。では、この「二分金」はどのような金貨なのでしょう。今回は、簡単にその特徴を紹介します。

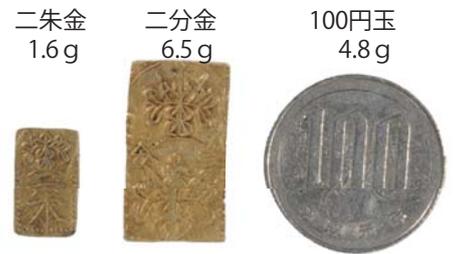
二分金の意味と価値

「二分金」は、江戸時代の文政元年（1818年）から明治2年（1869年）まで造られました。「二分」というのは、一両（小判一枚分）の半分、二分の一という意味です。一両は現在の価値に直すと、およそ10万円ぐらいになるので、「二分金」はその半分、5万円ほどの価値がありそうです。ちなみに、上で紹介した「二朱金」は、「二分金」の半分の価値がある「一分金」のさらに半分なので、およそ1万2千円ぐらいでしょうか。

※ 金貨の価値については諸説ありますが、今回は現在の米の値段と比較して算出しました。



企画展で展示されている二分金
(11月27日まで開催中)

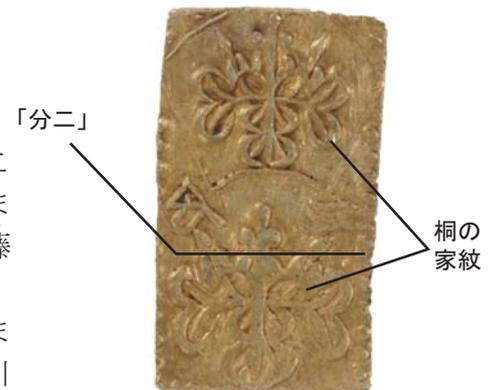


大きさと重さの比較

デザインのコツ

表面の「二分」の文字の上下に、植物がデザインされています。これは、もともと皇室で使われていた桐の家紋（五三桐）を表しています。江戸幕府の初代将軍徳川家康が金貨を造ることを許可した、後藤庄三郎光次に与えたものです。

裏面に刻まれた「光次」という文字は、彼の名ということになります。また、「後藤庄三郎」という名前は、金貨造りの責任者に代々引き継がれました。



表面拡大

文字で古さが分かる

裏面の右上には、「文」の文字が刻まれています。この「文」の字の表し方で、同じ「二分金」でも新旧を見分けることができます。

「文」と刻まれたものは一番古く「真文二分金」と呼ばれ、1818年～1828年まで造られました。次に「文」が「文」と刻まれた「草文二分金」（1828年～1832年）と呼ばれるものが、その後「文」の文字が無い「安政二分金」（1856年～1860年）などが造られました。



裏面拡大

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第56号

発行日 平成23年10月19日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp